

# 打上げが つなぐ人

鶴がつなぐ「思い」

9月29日、旧内之浦婦人会と、肝付町女性団体連絡協議会の代表の皆さんが、JAXA内之浦宇宙空間観測所の糸川博士銅像前でそれぞれ千羽鶴を贈呈しました。

旧婦人会会長の橋本雅子さんは、贈呈式の際「ロケットは内之浦にはなくてはならないもの。成功を祈っております。」と話されました。

旧婦人会の役員の皆さんを中心に地域の人たちが寄り合い制作した千羽鶴は、大人が一人



千羽鶴を贈呈した旧内之浦女性部・肝付町女性部の代表の皆さん

持ち上げるのが難しい程長く、先人たちが繋いできた長い歴史を彷彿とさせました。

肝付町女性団体連絡協議会が総勢88人で制作した千羽鶴は、色鮮やかにつなげられており、制作に携わった人たち全員の打ち上げ成功への期待と祈りが感じられました。



千羽鶴の贈呈は内之浦でロケットの打上げが始まり、地元として何かできることはないかと、当時会長だった(故)田中キミさんを中心に婦人会が取り組んだのが始まりです。

その年に打ち上げられたロケットは無事成功となりました。それが日本で初めて成功した人工衛星「おおすみ」です。

「おおすみ」が打ち上げられてから、50年余りが経過しましたが、今もなおJAXAと地元的女性たちの交流は続いています。

## ロケットがつなぐ「人」

町の人たちは、これまで様々な形でロケット打上げと関わってきました。

発射場の開発時には、町を挙げて協力しました。町の婦人会がシャベルを手に、発射場の労働者不足を手助けしたこともありました。

また、打上げ関係者と地元の人が交流会を行ったり、町のソフボール大会に打上げ関係者が参加したりと、ロケットの打上げ以外でも地域との交流を行っていました。

ほかにも、発射場ができたことで、当時電気の通っていないかった山あいの地域に電気が通ったり、開発関係者や記者など多くの人が町を訪れたり旧内之浦町・旧高山町の発展にもロケットは大きく関わっています。

発射場が開設してから59年経った今でも地域の人々は、近辺の交通整理や周辺海上の安全確保の協力など様々な形で打上げに携わっています。

合併し、肝付町になった今も町のシンボルの一つに「ロケット」が入っています。町にとってロケットはなくてはならないものなのです。



## 宇宙とつながる子どもたち

内之浦小学校では、「宇宙の教室」を設置し、子どもたちの宇宙への関心を高める学びと地元を愛する郷土学習を推進しています。

今回、総合的な学習の時間(銀河の時間)の「ぼくらの未来の宇宙人」の単元では5年生を中心にメッセージ企画を計画して取り組みました。

全校児童・職員でロケット打ち上げへの応援メッセージを書き、ロケット型にデザインしてJAXA宇宙空間観測所へ贈呈しました。

正門前には、横断幕を掲げるなど、学校全体で今回の打上げを応援しています。



皆様、日頃よりイブシロンロケットへのご支援、ご協力ありがとうございました。今回、新型コロナウイルス対策の影響で皆様方との交流を控えざるを得なかったことは非常に残念ですが、皆様方の応援の心はロケット関係者に届いております。今度の打上げでは2回延期してご迷惑をおかけした分を取り戻すべく関係者一同協力して全力を尽くします。

イブシロンロケット5号機が美しく飛んでいく姿をぜひ見てください。

JAXA イブシロンロケットプロジェクトチーム  
プロジェクトマネージャー

井元 隆行

